

企画展

曳山を彩る
絵師たち
IV

横山清暉

Yokoyama Seiki

2019年
7月19日
金
9月1日
日

《会期中無休》



曳山の舞台障子を描いた横山清暉の、はじめての展覧会。



紙本金地著色 菊白類鳥図 呉服町組常磐山蔵

展示説明会 [日時] 7月20日(土) 13:30～ [場所] 曳山博物館1階展示室

開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)

入館料 大人600円、小中学生300円 (団体20名様以上2割引)

※長浜市・米原市の小中学生は無料

主催 公益財団法人長浜曳山文化協会



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

企画展 曳山を彩る絵師たちⅣ

横山清暉

Yokoyama Seiki



横山清暉は、江戸時代後期に京都で活躍した四条派の画人です。寛政五年（一七九三）、京都に生まれ、初めは絵師の江村春南に丹青への途の手ほどきを受けます。その後、清暉は改めて松村呉春、そして景文に弟子入りし、洛中四条通りを拠点に活動しました。記録に残る清暉の大きな画事としては、東本願寺白書院杉戸絵や祇園祭長刀鉾の軒下絵「百鳥図」の制作などが挙げられます。

このように京都で活躍した清暉ですが、長浜曳山祭の曳山にも作品を残しています。

清暉は、嘉永四年（一八五二）に呉服町組常磐山の舞台障子腰襖の「菊白頼鳥図」を描いています。この絵は、白や紅などの咲き乱れる三種の中菊を周囲に描き、中央には大輪の厚物咲（大菊）を配しています。右端から二羽の頼鳥が、菊花を目指して飛来しています。この菊は、十、十一月に咲く秋菊で、旧暦の秋九月に花を咲かせます。曳山祭の季節に合わせた画題です。また菊は、その高潔な美しさが君子に似ているため、梅・蘭・竹と共に「四君子」に数えられています。

今回の企画展では、この襖絵を紹介すると共に、その他の作品も展示します。今まで、まとまった展覧会がない清暉という画人を皆様に知って頂き、その優れた画技を再認識頂ける機会になれば幸いです。



紙本墨画淡彩 東方朔図 京都市学校歴史博物館蔵



紙本金地著色 夏秋図（部分）六曲一双 個人蔵



絹本着色 石山図 個人蔵



絹本着色 高砂図 個人蔵

曳山の展示

げっきゅうでん
月宮殿



かすがざん
春日山



実物の曳山をご覧いただけます。
(2020年長浜曳山祭に出場する曳山)

NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

滋賀県長浜市元浜町14番8号

[TEL] 0749-65-3300

[FAX] 0749-65-3440

<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/>



入館料			
	大人	小中学生	障がい者
個人	600円	300円	無料
団体 (20名様以上)	480円	240円	障がい者手帳の提示で本人と介護者1名

*長浜市・米原市の小中学生は無料

- 9時～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日：年末年始（12月29日～1月3日）



●JR長浜駅から徒歩7分 ●長浜ICより車で10分